

# 主婦の嗜好飲料（第3報）

——夏期における摂取状態と地方差について——

山岸 恵美子\*

## I 緒 言

長野県の主婦は、他府県の主婦に比較して一般に喫茶量が多いといわれているので、筆者はその実態を把握するために、昭和37年2月、茶を中心とする嗜好飲料の摂取状態について調査を行なった。

調査対象として、長野県では県境で積雪期間の長い飯山地方と、地方都市である長野市の主婦を選んだ。そしてこの比較に、県外では生活環境の全く異なる東京地方の主婦を加えた。

調査の結果、地理的条件が異なると、主婦の嗜好飲料の摂取状態にも差を生ずることが認められた。しかし、1日の喫茶量については、明確な地方差を見ることができなかつた。<sup>1)</sup>

今回は引つづき、同地方の主婦の夏期における摂取状態について調査を行ない、地方差の有無を検討して、その結果をまとめてみたので報告する。

## II 調査方法

### (1) 調査期間

7月下旬から8月中旬までの暑時は、学校が休暇になっていて、生徒を通して母親に依頼することが困難な状態にあったので、休み明けの飯山・長野地方は8月下旬、東京地方は9月上旬に調査を実行した。この期間は残暑きびしくしのぎにくい時期で、夏期の調査条件には該当しているものと思われる。

### (2) 調査対象

飯山・長野地方は冬期に調査した学校、すなわち、飯山地方は飯山市太田中学校と下水内郡北信中学校、長野地方は長野市柳町ならびに西部中学校に通学する生徒の母親について調査をした。しかし、被対象者は必ずしも同一人ではない。東京地方は、冬期の世田谷区立千才中学校に隣接する緑ヶ丘中学校に通学する生徒の母親に変更した。（教師の都合による）

3地方の主婦の家の職業は表1のとおりで、冬期と夏期の職業分布の傾向差を $\chi^2$ 検定すると、飯山地方 $\chi^2_{0.05}(2)=5.99 > 1.71$ 、長野地方 $\chi^2_{0.05}(3)=7.81 > 7.32$ 、東京地方 $\chi^2_{0.05}(3)=7.81 > 7.06$ で、有意差が認められない。また、主婦の年齢は表2のとおりで、飯山地方 $\chi^2_{0.05}(5)=11.07 > 5.47$ 、長野地方 $\chi^2_{0.05}(5)=11.07 > 9.45$ 、東京地方 $\chi^2_{0.05}(4)=9.49 > 4.60$ で、同様に有意差はみられなかった。

### (3) 調査人数

飯山・長野地方は各200名、東京地方は150名としたが、回収率は飯山・長野地方100.0%、東京地方75.3%であった。

## III 調査結果とその考察

調査結果の処理ならびにその検討は冬期と同様にした。すなわち、調査結果は百分率で表示し、地方

\* 生活科学第二助手

別の傾向差の検討は、5%危険率による $\chi^2$ 検定で行なった。検定に際しては、表中点線の部分内で合併した。なお、今回はさらに追究するため、このほかに危険率5%の比率検定も行なった。比率の検定は $\chi^2$ 検定と同様に、飯山—長野、長野—東京の2地方間で行ない、飯山—東京地方の検定は省略した。したがって、3地方の比率に差がないと記述してある時は、飯山—長野、長野—東京地方の比率に差が認められない場合である。

#### (1) 主婦が1番飲んでいる飲料について

夏期に主婦が1番飲んでいる飲料は表3のとおりで、その傾向分布は表3の処理に示すとおり、3地方で有意差が認められた。各飲料について見ると、緑茶は3地方共飲料中で1番飲んでおり、全飲料に対する緑茶の比率は長野—東京地方では有意差を見られなかったが、飯山—長野地方では認められた。すなわち5%危険率で、飯山地方の主婦は長野・東京地方の主婦より茶をのむ割合が多いといえる。清涼乳酸飲料は、暑い季節なので3地方共緑茶について飲用し、その大部分はジュースであった。これはインスタント粉末ジュースの普及によるものと思われる。しかし、ジュースを飲む比率は、3地方で有意差が見られた。牛乳を飲む割合は清涼乳酸飲料について見られ、体力の消耗はげしい暑時であるので、栄養上摂取している人が多かった。牛乳を飲む割合は、東京地方の方が飯山・長野地方より2倍近く見られ、長野—東京地方で明らかに比率に有意差が認められた。健康上から考えると、東京地方の主婦の方が好ましい状態といえる。農村では山羊乳の摂取も僅かながら見られたが、肉休労働のきびしい農村ではもつと栄養価の高い山羊乳の飲用を増加するよう工夫したいものである。コーヒー（ココア）、紅茶の飲用者は東京地方で約1割みられたが、飯山・長野地方は東京地方の $\frac{1}{2}$ 以下であった。

#### (2) 喫茶について

1番飲んでいる茶について、毎日飲んでいるかどうかを調べたところ表4のとおりで、主婦の8割以上が毎日喫茶しており、表4の処理に示すとおり、3地方に傾向差は見られなかった。茶は地理的条件にかかわらず、嗜好飲料としての価値は大きいものと思われる。

茶の種類：飲んでいる茶は表5のとおりで、その傾向分布は表5の処理に示すとおり、3地方で有意差が認められた。主婦の茶に対する嗜好は、地方により異なるものと思われる。

これを種類別にみると、煎茶は長野—東京地方においては茶中で1番使用度高く、主婦の半数以上が飲んでいて、飯山地方では煎茶より番茶の方がやや多かった。3地方共煎茶と番茶の飲用が茶中大部分を占めていた。このほか長野地方は玉露、東京地方は紅茶も約1割飲んでいて、

1日の喫茶量：3地方の主婦の喫茶量は表6のとおりで、その傾向分布は表6の処理(i)に示すとおり、3地方で有意差が認められた。

1番多く飲んでいるところを表から見ると、3地方共1日に360~720mlであったが、東京地方では0~360mlの人もこれに劣らぬ程みられた。360~720mlについて、飯山・長野地方ではそれ以上の720~1080mlを飲む人が多かった。しかし、全体の傾向分布は上述したごとく3地方で異なり、長野地方はちょうど飯山と東京地方の中間の状態にあった。

なお、平均値の量の比較をt検定により調べてみると、表6の処理(ii)のとおりで、飯山—長野、飯山—東京地方で有意差が認められた。しかし、長野—東京地方では $t_0=1.08 < t_{0.05}=1.96$ で有意差が認められなかった。これは長野と東京地方の生活水準が似てきていることを示す1つの資料であると思

われる。

1日に飲む茶の回数は表7のとおりで、その傾向分布は表7の処理に示すとおり、3地方に有意差が見られた。3地方共食前または食後に1度ずつ飲む人が1番多かった。そして平均値からも明らかなく、東京地方の主婦が1番回数が多く、ついで飯山、長野地方の順になっていた。しかし、1回に飲む茶の量(杯数)は表8のとおりで、東京地方が飯山・長野地方より1杯少く、傾向差は表8の処理に示すとおり長野—東京地方で見られ、飯山—長野地方には見られなかった。

茶を飲む理由：暑時に茶を飲む理由は表9のとおりで、その傾向分布は表9の処理に示すとおり、地理的に近い飯山—長野地方では差を見られなかったが、長野—東京地方には認められた。

常識的に暑時は“のどが乾く”が1番あると予想されたが結果は異なり、3地方共習慣上飲んでいる人が1番見られた。“習慣”の占める割合は各地方共全理由の3割で、その比率には有意性が認められなかった。“習慣”について飯山・長野地方では“のどが乾く”“親睦”“おいしい”，東京地方は“おいしい”“のどが乾く”“栄養”の順になっており、都会と田舎では理由が異なっていた。しかし“のどが乾く”の比率は“習慣”と同様、3地方で有意差が見られなかった。“親睦”は飯山・長野地方で2割近く見られ、冬期と同様、田舎の主婦達のつき合いに喫茶が重要であることを確認した。

茶を飲む時の付合わせ：喫茶時に出す食物は表10のとおりで、その傾向分布は表10の処理に示すとおり、3地方で有意差が認められた。

飯山・長野地方は夏でも漬物・駄菓子を出して出していた。夏の漬物は主としてきゅうり・なすなどの糠味噌漬で、食慾のない夏、田舎の主婦達は漬物から塩分を取りながら、茶をおいしく飲んでいるものと思われる。東京地方の付合わせは駄菓子・生菓子が多かった。果物は新鮮なものが容易に入手できる田舎の方が少なかった。煮物は反対で、忙しい農家が75%も存在する飯山地方では1割も出していた。食物が腐敗しやすい夏期、この地方では特に食中毒に対して注意する必要がある。長野地方の煮物を出す割合は飯山地方の $\frac{1}{2}$ 、東京地方は飯山地方の $\frac{1}{4}$ であった。また、東京地方は5%が付合わせを出していなかった。

### (8) 茶以外に毎日飲んでいる飲料について

茶以外に毎日一定の飲料を飲んでいる主婦は、飯山地方39%、長野地方49%、東京地方46%であった。

飲料の種類：表11のとおりで、1番飲んでいる飲料のように多種類ではなく、3地方共牛乳とジュースが大部分であった。牛乳・ジュースを合わせると飯山地方94%、長野地方85%、東京地方79%の高率で、田舎へいくにしたがいがこの2種類に片寄っていた。しかし、3地方における牛乳・ジュースの比率および各種飲料の傾向分布には有意差を認めることができなかった。

飲む理由：表12のとおりで、3地方共栄養上飲んでいる人が半数以上を占め、ついで“おいしい”“のどが乾く”の順で、理由の傾向分布は表12の処理に示すとおり、3地方では有意差が見られなかった。また“栄養”“おいしい”については、3地方で比率の差も認められなかった。

これを飲料別に見ると表には示さなかったが、牛乳は78%が“栄養”で“おいしい”は9%にすぎず、また、ジュースは“おいしい”が31%、“のどが乾く”が23%であり、牛乳ほど理由に片寄りが見られなかった。なお、茶以外の飲料を飲む理由を茶を飲む理由と比較すると、飯山地方 $\chi^2_{0.05}(2) = 5.99 < 107.49$ 、長野地方 $\chi^2_{0.05}(2) = 5.99 < 79.71$ 、東京地方 $\chi^2_{0.05}(2) = 5.99 < 71.57$ で、3地方共傾向差が認められた。すなわち図1のごとくで、茶以外の飲料を飲む理由の方が種類は少なく、茶の場合とは摂取目

的が異なっていることが認められた。

#### (4) 来客時に出す飲料について

飲料の種類：飲料の種類が地方により異なった傾向を示すかどうかを $\chi^2$ 検定で調べてみると、表13の処理に示すとおり、有意な傾向差が見られた。

出す飲料は表13のとおりで、3地方共緑茶が1番多くて約半数を占めていた。そして飯山—長野地方では比率に有意差を見られなかったが、長野—東京地方では認められた。緑茶について3地方共清涼乳酸飲料を多く出していたが、その大部分はジュースであった。ジュースを出す比率は3地方で有意差が見られなかった。このほか、東京地方ではコーヒー（ココア）、紅茶など、ジュース、緑茶より高価な飲料も1割ほど出していた。

つぎに、来客時に出す飲料を1番多く飲んでいる飲料と比較すると、飯山地方 $\chi^2_{0.05}(4)=9.49 > 8.84$ で傾向差が見られず、日常飲んでいる飲料をそのまま来客時にも出していることが認められたが、長野・東京地方では異なっていた。すなわち、長野地方 $\chi^2_{0.05}(5)=11.07 < 28.56$ 、東京地方 $\chi^2_{0.05}(5)=11.07 < 47.25$ で、両地方では有意な傾向差が認められた。

付合わせ：総括して地方別に考察すると表14のとおりで、その傾向分布は表14の処理に示すとおり3地方で有意差が見られた。

飯山地方は駄菓子と漬物で68%、長野地方は生菓子と漬物で57%、東京地方は生菓子と果物で74%を占めていた。果物は東京地方では3割出していたが、飯山・長野地方は1.5~2割であった。飯山・長野地方は煮物も僅かながら出していた。これらのことから冬期と同様、長野地方の付合わせは飯山・東京地方のものを折衷していることが認められた。

つぎに、飲料別に付合わせを見ると表15のとおりで、緑茶・コーヒー（ココア）・紅茶は、地方別に考察した場合と大体同様の傾向を示すが、清涼乳酸飲料の場合は異なり、3地方共果物を沢山出していた。

なお、来客時に出す茶の付合わせを日常飲んでいる茶の付合わせと比較すると、図2のとおりで、3地方共駄菓子については大差なかったが、生菓子は来客時の方が約2倍増加していた。漬物・果物は飯山・長野地方では平時も来客時もあまり違わなかったが、東京地方では来客時の方が漬物は少く、果物が多くなっていった。傾向差は飯山地方 $\chi^2_{0.05}(4)=9.49 < 30.83$ 、長野地方 $\chi^2_{0.05}(4)=9.49 < 32.03$ 、東京地方 $\chi^2_{0.05}(4)=9.49 < 29.24$ で、3地方共平時と来客時の付合わせに有意な差が認められた。

#### (5) 飲みたい飲料について

夏期に各地方の主婦がいかなる飲料を希望するかを調査したところ、解答率は飯山地方50%、長野・東京地方各57%で、約半数の人が特別に希望を示さなかった。

飲料の種類：希望飲料は表16のとおりで、その傾向分布は表16の処理に示すとおり、飯山—長野地方で有意差が認められ、長野—東京地方では見られなかった。このことは、長野と東京地方の主婦の飲料に対する嗜好が似ていることを示している。

種類別に見ると、長野・東京地方は緑茶を希望する人が3割を越え、比率にも有意差がなかった。しかし、飯山地方では緑茶が牛乳・コーヒー（ココア）と同じく約2割を示し、長野地方との間に比率の差が見られた。牛乳の希望率は3地方に差がなかった。清涼乳酸飲料は田舎へ行くにしたがい希望者が

増加していた。

つぎに、希望飲料を1番多く飲んでいる飲料と比較すると、飯山地方  $\chi^2_{0.05}(4) = 9.49 < 95.64$ 、長野地方  $\chi^2_{0.05}(6) = 12.59 < 53.05$ 、東京地方  $\chi^2_{0.05}(5) = 11.07 > 8.14$  で、東京地方では傾向差が見られず、希望飲料を日常摂取していることが分かった。しかし、飯山・長野地方では差があり、希望（理想）と実状（現実）との間に開きがあることが認められた。

なお、日常、来客時、希望飲料を1括して図に示すと図3となり、前述したことが明瞭に理解出来る。

飲みたい理由：表17のとおりで、3地方共“おいしい”が1番多く、ついで“栄養”“のどが乾く”の順で、表17の処理に示すとおり、理由の傾向分布は3地方では有意差が見られなかった。しかし、比率は“おいしい”において、長野—東京地方に有意差が認められた。

これを飲料別に考察すると、表には示さなかったが、緑茶は“おいしい”が43%，“のどが乾く”が30%であった。牛乳は栄養上飲んでいる人が85%もあり，“おいしい”は13%にすぎなかった。コーヒー（ココア）は78%が“おいしい”であり、清涼乳酸飲料は45%が“おいしい”，25%が“栄養”であった。

#### IV 総 括

飯山・長野・東京地方の主婦の夏期における嗜好飲料の摂取状態と地方差の有無を調査した結果を要約すれば、つぎのとおりになる。

(1) 暑時に主婦が飲んでいる飲料のうち、3地方共通に多いものは緑茶・ジュースであった。緑茶は主婦の8割が毎日飲み、その喫茶量は、飯山地方の主婦の方が長野・東京地方の主婦より多かった。

(2) 喫茶の理由は、3地方共“習慣”が3割で1番多く、ついで飯山・長野地方は“のどが乾く”東京地方は“おいしい”で、傾向差は飯山・長野地方では認められなかった。

(3) 喫茶時の付合わせは、飯山・長野地方は漬物、東京地方は生菓子が多く、また、駄菓子は地方差なく沢山出していた。

(4) 茶以外の飲料を毎日飲んでいる主婦は4～5割で、3地方共牛乳とジュースが大部分であった。3地方の傾向分布ならびに比率は有意差が見られなかった。

飲む理由は、3地方共“栄養”が1番多く、ついで“おいしい”“のどが乾く”の順になっていた。

(5) 来客時に出す飲料は、3地方共緑茶が約半数で1番多く、ついでジュースになっており、地方別の傾向分布には有意差を認められた。また、飯山地方では、日常飲んでいる飲料をそのまま来客時にも出していたが、長野・東京地方では異なっていた。

(6) 来客時に出す飲料の付合わせは、飯山地方は駄菓子と漬物、長野地方は生菓子と漬物、東京地方は生菓子と果物が多かった。また、来客時と日常の茶の付合わせを見ると、3地方共駄菓子については大差なかったが、生菓子は来客時の方が約2倍増加していた。

(7) 1番飲みたい飲料は、長野・東京地方では緑茶であったが、飯山地方では緑茶が牛乳・コーヒー（ココア）と同程度の割合であった。また、東京地方は希望飲料を日常摂取していたが、飯山・長野地方では異なっていた。

(8) 飲みたい理由は、3地方共“おいしい”“のどが乾く”“栄養”の順で、地方別の傾向差は見られ

なかった。飲料別に見ると、牛乳は“栄養”，緑茶・コーヒー（ココア）・清涼乳酸飲料は“おいしい”が多かった。

(9) 以上のことから冬期と同様、消費生活になれている都会の主婦の方が摂取する食品の種類が多く栄養的には田舎よりすぐれていた。また、都会の主婦の方が日常、来客時、希望飲料の差は少く、恵まれた状態であった。

最後に、本調査を行なうにあたり御協力下さった川口鈴、山極ゆり子、大塚富美子、塚田とめお、西条智子、酒井睦子諸先生に厚く御礼申し上げる。

### 文 献

- 1) 山岸：長野短紀 17 47 (1962)
- 2) 岩田：食品学 養賢堂 (1960)
- 3) 社会栄養学研究グループ：嗜好調査 (1962)
- 4) 高橋、赤羽：栄養調査のやり方まとめ方 第一出版 (1960)
- 5) 寺田：推測統計法 朝倉書店 (1951)

表1 家の職業 (%)

職業	地方名	飯 山	長 野	東 京
農 業		74.8	6.0	2.2
公 務 員	会 社 員	0.9	40.0	54.6
商 業		3.7	31.0	16.1
そ の 他		1.4	6.0	7.7
無 解 答		19.2	17.0	19.4
百 分 率 (実数)		100.0(200)	100.0(200)	100.0(113)

表2 主婦の年齢 (%)

年齢	地方名	飯 山	長 野	東 京
31 ~ 35 才		6.4	10.3	11.5
36 ~ 40		21.6	27.3	32.9
41 ~ 45		25.4	24.9	28.3
46 ~ 50		20.3	18.1	16.8
51 ~ 55		11.5	9.2	5.3
56 ~ 60		0.5	0	1.8
無 解 答		14.3	10.2	3.4
百 分 率 (実数)		100.0(200)	100.0(200)	100.0(113)

表3 1番多く飲んでいる飲料(%)

種類	地方名	飯 山	長 野	東 東
緑	茶	59.7	42.8	34.7
ジュース		23.1	31.4	17.0
牛乳(山羊乳)		7.4	11.3	21.6
紅	茶	2.7	0.4	5.7
コーヒー(ココア)		1.2	2.5	5.7
カルピス		0	4.2	5.1
サイダー		5.1	2.8	2.8
氷	水	0.8	2.8	3.4
麦	茶	0	1.8	4.0
百分率(実数)		100.0(258)	100.0(283)	100.0(176)

表3の処理

比較地方	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	8	68.64	15.51	有意
長野・東京	4	32.13	9.49	有意
飯山・長野	4	42.45	9.49	有意

表4 茶を飲んでいるか(%)

状態	地方名	飯 山	長 野	東 京
毎日飲んでいる		86.6	82.0	87.6
時々	〃	8.3	17.6	9.7
来客時だけ	〃	5.1	0.4	2.7
百分率(実数)		100.0(217)	100.0(205)	100.0(113)

表4の処理

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	2	2.32	5.99	なし
長野・東京	1	1.68	3.84	なし
飯山・長野	1	1.82	3.84	なし

表5 茶の種類(%)

種類	地方名	飯 山	長 野	東 京
煎	茶	41.2	51.2	54.8
番	茶	46.7	27.8	18.1
玉	露	4.5	10.1	4.2
紅	茶	4.0	4.9	11.1
玄米	茶	0.5	1.9	5.6
その他	他	3.1	4.1	6.2
百分率(実数)		100.0(223)	100.0(266)	100.0(144)

表5の処理

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	8	53.94	15.51	有意
長野・東京	4	17.36	9.49	有意
飯山・長野	4	21.71	9.49	有意

表6 1日に飲む茶の量(%)

茶の量(ml)	地方名	飯山	長野	東京
0 ~ 360		10.3	17.0	32.9
360 ~ 720		45.4	48.4	37.1
720 ~ 1080		18.8	21.2	12.7
1080 ~ 1440		16.4	10.2	11.6
1440 ~ 1800		4.9	3.2	4.2
1800 以上		4.2	0	1.5
百分率(実数)		100.0(165)	100.0(165)	100.0(94)
平均		802ml	666ml	613ml
標準偏差		462ml	356ml	418ml

表6の処理 (i) 喫茶量の傾向差の検定

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	8	28.12	15.51	有意
長野・東京	4	12.11	9.49	有意
飯山・長野	4	9.99	9.49	有意

(ii) 喫茶量の平均値の比較検定

比較地方名	$t_0$	$\infty \sim t_{\infty}(0.05)$	有意差の有無
長野・東京	1.08	1.96	なし
飯山・長野	3.34	1.96	有意
東京・飯山	3.26	1.96	有意

表7 1日に飲む茶の回数(%)

回数	地方名	飯山	長野	東京
1 ~ 2		24.1	39.0	20.0
3 ~ 4		56.2	49.4	49.6
5 ~ 6		19.1	10.4	28.6
7 以上		0.6	1.2	1.8
百分率(実数)		100.0(178)	100.0(172)	100.0(105)
平均		3.4	3.0	3.7



表7の処理

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	4	22.95	9.49	有意
長野・東京	2	18.69	5.99	有意
飯山・長野	2	10.58	5.99	有意

表8 1回に飲む茶の量(%)

杯数	飯山	長野	東京
1 ~ 2	22.5	28.6	70.0
3 ~ 4	63.0	56.7	24.8
5 ~ 6	12.9	13.5	5.2
7 以上	1.6	1.2	0
百分率(実数)	100.0(178)	100.0(171)	100.0(97)
平均	3.4	3.2	2.2

表8の処理

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	4	68.55	9.49	有意
長野・東京	2	44.61	5.99	有意
飯山・長野	2	1.60	5.99	なし

表9 茶を飲む理由(%)

理由	地方名	飯山	長野	東京
習慣		31.2	29.2	31.7
おいしい		14.5	17.2	27.3
のどが乾く		26.4	20.9	21.9
栄養		6.9	9.9	10.9
親睦		15.5	18.3	4.4
話時淋しい		5.5	3.7	3.3
その他		0	0.8	0.5
百分率(実数)		100.0(379)	100.0(354)	100.0(183)

表9の処理

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	10	35.94	18.31	有意
長野・東京	5	23.69	11.07	有意
飯山・長野	5	5.99	11.07	なし

表10 茶を飲む時の付合わせ (%)

種 類	地方名	飯 山	長 野	東 京
漬 物		38.0	36.0	15.2
駄 菓 子		39.2	32.9	32.6
生 菓 子		1.9	14.5	29.8
果 物		8.9	10.1	12.3
煮 物		10.8	5.5	2.8
何 も な し		0	0.2	4.5
そ の 他		1.2	0.8	2.8
百 分 率 (実数)		100.0(418)	100.0(456)	100.0(178)

表10の処 理

比較地方名	自 由 度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯山・長野・東京	10	159.12	18.31	有 意
長 野・東 京	5	55.53	11.07	有 意
飯 山・長 野	5	51.54	11.07	有 意

表11 茶以外に毎日飲んでいる飲料 (%)

種 類	地方名	飯 山	長 野	東 京
牛 乳 (山 羊 乳)		37.2	36.1	42.3
ジ ュ ー ス		56.5	48.5	36.6
コ ー ヒ ー (コ コ ア)		1.3	2.1	5.8
乳 酸 飲 料		0	5.2	9.6
そ の 他		5.0	8.1	5.7
百 分 率 (実数)		100.0(78)	100.0(97)	100.0(52)

表11の処 理

比較地方名	自 由 度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯山・長野・東京	4	8.57	9.49	な し
長 野・東 京	2	2.07	5.99	な し
飯 山・長 野	2	1.29	5.99	な し

表12 茶以外の飲料を毎日飲む理由 (%)

理 由	地方名	飯 山	長 野	東 京
栄 養		52.3	52.4	69.1
お い し い		23.1	30.5	19.0
の ど が 乾 く		20.0	13.4	11.9
そ の 他		4.6	3.7	0
百 分 率 (実数)		100.0(65)	100.0(82)	100.0(42)

表12の処理

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	4	6.17	9.49	なし
長野・東京	2	3.69	5.99	なし
飯山・長野	2	2.13	5.99	なし

表13 来客時に出す飲料 (%)

種類	地方名	飯山	長野	東京
緑茶		62.9	53.1	41.8
コーヒー(ココア)		2.4	3.8	8.2
紅茶		6.1	3.4	8.9
ジュース		19.2	22.3	18.3
サイダー		5.3	3.8	5.1
乳酸飲料		2.0	7.9	14.6
水	水	0.8	5.7	2.5
その他		1.3	0	0.6
百分率(実数)		100.0(245)	100.0(265)	100.0(158)

表13の処理

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	12	45.50	21.03	有意
長野・東京	6	16.68	12.59	有意
飯山・長野	6	16.57	12.59	有意

表14 来客時に出す飲料の付合わせ (その1) (%)

種類	地方名	飯山	長野	東京
生菓子		10.9	29.3	43.7
駄菓子		36.6	22.3	20.6
漬物		31.4	27.9	3.3
果物		15.0	17.4	30.0
煮物		5.6	2.4	0
何もなし		0.5	0.7	2.4
百分率(実数)		100.0(466)	100.0(547)	100.0(243)

表14の処理

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	8	181.04	15.51	有意
長野・東京	4	72.32	9.49	有意
飯山・長野	4	65.27	9.49	有意

表15 来客時に出す飲料の付合わせ (その2) (%)

付合わせ	飲料	地方名				東 京				
		飯 山	長 野	東 京	京	緑 茶	コーヒー (ココア) 紅 茶	清 乳 飲	涼 酸 料	
漬 物		34.9	29.3	22.8	31.6	23.4	23.6	2.1	0	4.1
駄 菜 子		38.1	36.6	33.6	24.8	13.3	19.0	26.3	15.8	17.4
生 菓 子		10.1	12.2	11.8	29.4	46.7	27.0	49.4	50.0	36.7
果 物		10.4	14.6	27.3	11.3	13.3	27.0	22.2	31.6	37.8
煮 物		6.2	7.3	2.7	2.9	3.3	1.7	0	0	0
何 も な し		0.3	0	1.8	0	0	1.7	0	2.6	4.0
百 分 率 (実 数)		100.0 (307)	100.0 (41)	100.0 (110)	100.0 (310)	100.0 (30)	100.0 (174)	100.0 (99)	100.0 (38)	100.0 (98)

表16 飲みたい飲料 (%)

種 類	地方名	飯 山	長 野	東 京
緑 茶	茶	19.8	36.0	32.8
番 茶	茶	1.9	1.8	1.6
コーヒー (ココア)		19.8	10.5	21.9
紅 茶	茶	1.9	0.9	3.1
牛 乳	乳	18.9	18.4	18.8
乳 酸 飲 料		12.3	11.4	7.8
ジ ュ ー ス		9.4	7.0	6.2
サ イ ダ ー		8.5	2.6	0
水	水	7.5	1.7	0
そ の 他		0	9.7	7.8
百 分 率 (実数)		100.0(106)	100.0(114)	100.0(64)

表16の処 理

比較地方名	自 由 度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有 意 差 の 有 無
飯山・長野・東京	8	16.26	15.51	有 意
長野・東京	4	7.66	9.49	有 意
飯山・長野	4	11.47	9.49	有 意

表17 飲みたい理由 (%)

理 由	地方名	飯 山	長 野	東 京
お い し い		46.5	38.9	54.1
栄 養	養	25.4	32.6	20.3
の ど が 乾 く		16.7	20.6	18.9
親 睦	睦	11.4	7.9	6.7
百 分 率 (実数)		100.0(114)	100.0(126)	100.0(74)

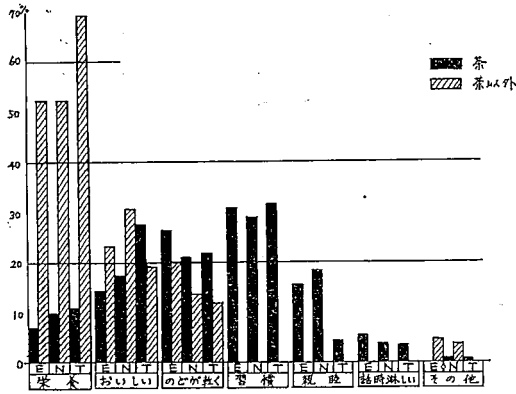
表17の処理

比較地方名	自由度	$\chi^2$	$\chi^2(0.05)$	有意差の有無
飯山・長野・東京	6	7.36	12.59	なし
長野・東京	3	5.21	7.81	なし
飯山・長野	3	2.59	7.81	なし

表18 比率の有意差検定  $Z(0.05)=1.96$

項目	飲料の種類および理由	比較地方名	$Z_0$	有意差の有無
1番多く飲んでいる飲料	緑茶	飯山・長野	4.12	有意
		長野・東京	1.81	なし
	ジュース	飯山・長野	2.16	有意
		長野・東京	3.49	有意
	牛乳	長野・東京	2.98	有意
茶以外に毎日飲んでいる飲料	牛乳	飯山・長野	0.15	なし
		長野・東京	0.74	なし
	ジュース	飯山・長野	1.05	なし
		長野・東京	1.39	なし
来客時に出す飲料	緑茶	飯山・長野	0.22	なし
		長野・東京	2.26	有意
	ジュース	飯山・長野	0.86	なし
		長野・東京	0.98	なし
1番飲みたい飲料	緑茶	飯山・長野	2.66	有意
		長野・東京	0.43	なし
	牛乳	飯山・長野	0.10	なし
		長野・東京	0.06	なし
茶を飲む理由	習慣	飯山・長野	0.58	なし
		長野・東京	0.60	なし
	のどが乾く	飯山・長野	1.76	なし
		長野・東京	0.27	なし
茶以外の飲料を毎日飲む理由	おいしい	飯山・長野	1.38	なし
		長野・東京	1.00	なし
	栄養	飯山・長野	0.01	なし
		長野・東京	1.78	なし
1番飲みたい飲料の理由	おいしい	飯山・長野	1.19	なし
		長野・東京	2.08	有意
	栄養	飯山・長野	1.22	なし
		長野・東京	1.76	なし

図1. 茶を飲む理由と茶以外の飲料を飲む理由の比較



E: 飯山地方 N: 長野地方 T: 東京地方

図2. 日常飲んでいる茶と来客時に出す茶の付合わせの比較

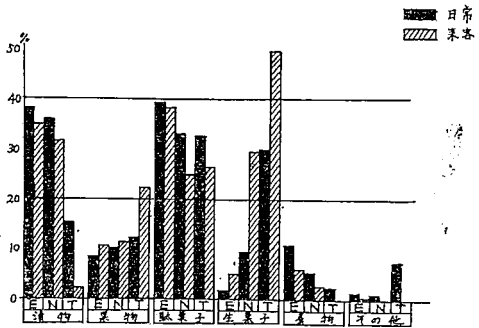
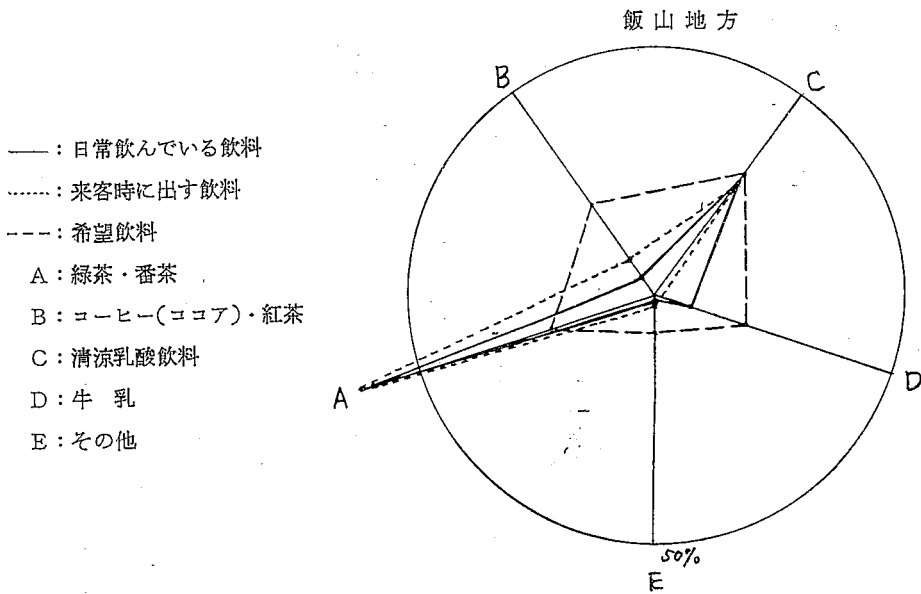
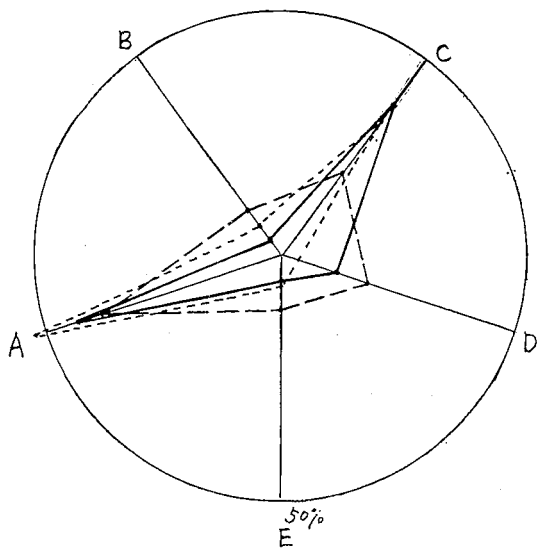


図3. 日常・来客時・希望飲料の比較



長野地方



東京地方

